

平成29年度第2回辰野町総合教育会議議事録

【日時】

平成30年3月26日(月)

開会 午後2時00分

閉会 午後3時25分

【会場】

辰野町役場第6会議室

【出席者】

12名

(辰野町関係者)

辰野町長 武居 保男

辰野町副町長 山田 勝己

(辰野町教育委員会)

教育長 宮澤 和徳

教育長代理 根橋 久人

教育委員 村上 陽子

教育委員 垣内 由佳

教育委員 関 政彦

(事務局関係)

総務課長 一ノ瀬 元広

生涯学習課長 原 照代

こども課長 武井 庄治

学校教育係長 桑原 さゆり

学校教育係 三村 瑞樹

1、開会の言葉

＜一ノ瀬総務課長＞

寒い冬も終わりました、暖かい春の日差しが感じられるようになりました。皆様におかれましては年度末の大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、大勢の傍聴の皆様、本日はありがとうございます。

それでは平成 29 年度第二回辰野町総合教育会議を始めます。

町長あいさつ

＜武居町長＞

委員の皆さんお忙しい中ご出席ありがとうございます。また、報道関係、傍聴の皆さんご出席ありがとうございます。

さて、昨年 12 月 15 日に開催しました、第一回辰野町総合教育会議において川島小学校のあり方について、出席委員の皆さんからご意見を頂きました。次の総合教育会議においてこの件について議論しましょうということで散会しました。その後、私自身も考えをまとめる作業に入りまして、また、先日の辰野町 3 月議会にも何名かの議員の皆さんからも町長の考えや決断の時期はいつかと質問がありまして今日に至っています。本日の会議では私の考えを発表します。委員の皆さんにおいては本日は傍聴の方が多く緊張なされているかと思いますがご了承願います。

それでは始めさせていただきます。

教育長あいさつ

＜宮澤教育長＞

改めましてこんにちは。午前中は教育委員会事務局の電話がなりっぱなしでした。その多くが今日の総合教育会議は傍聴してもいいですか、とか何時からですか、とか場所はどこですか、こういう内容が 20 件近くありました。それだけ関心があるなあと感じました。この総合教育会議が開始して今回が 5 回目になります。今まで何人かの傍聴もありましたが、本日のような多くの人に傍聴していただいたのは初めてでございます。それだけ教育に関わる関心が高くうれしく思っています。やはり人口 2 万人弱の辰野町でありますので、教育問題について、学校のあり方についてこれまでもそうでしたけど、一部のところで、教育委員会だけあるいは一部の組織だけで考えるのではなくて、広く町民みんなで自分の課題として検討していただきたい、そういう思いを持っていました。これは今も変わっていません。多くの皆様に学校のあり方や町のあり方について感心をもって議論していただく、お互いに持つて意見を受け入れながら自分の考えを深めていくことも時には必要だと思いますけども、多くの皆様とともに議論できることがありがたいなあと思っています。

今町長が学校のあり方について 1 つそうですし、来月から新しい学習指導要領の移行

を含めて始まってまいります。学校のスタイルが、授業のスタイルが変わってくるそのことも今日話題に載せながら、町長、副町長にも理解を頂きながら、支援をいただけたらありがたいなと思います。一方では教員の働き方改革も叫ばれているんですけども根本的に解決できる施策はありません。辰野町としますと一歩でも進めたいと思いますので1つの提案をさせていただきます。これについても町長、副町長ともにご理解を頂いて支援を頂きたいと思います。委員のみなさんも傍聴の方がたくさんいまして緊張なさると思いますが、思っていることを遠慮せずに話していただければと思います。よろしく願いいたします。

協議事項

(1) 辰野町に於ける新学習指導要領について

<宮澤教育長>

資料 No.1 をご覧ください。4月1日から平成30年度がスタートします。戦後最大の学習指導要領の改訂がございました。小学校は2020年度から完全実施となります。中学校は1年遅れます。それに向けて移行が2年間ありますけれどこれが4月から始まります。そこで辰野町教育委員会としましても学校、町の校長会と調整をしながらこの資料のようにスタートしていきたいと考えましたのでお願いします。

1つ目、特別な教科「道徳科」が始まります。すでに昨年8月には教科書が決定されています。上伊那郡全体で教科書を採択しています。この新しい教科書、光村図書になりますが、この教科書会社のホームページや指導案計画案を作り、それを参考にしながら、各校学年の年間指導計画を作成し終わっています。各学校ではそれぞれ指導計画に基づいて自分の学校における具体的な指導案作りとなっております。現場の先生たちもそうですが、新しい教科が導入されるというのは、長野県においては今までも小学校中学校では道徳の学習をきちんとやっておりますので、それが文科省の監修の元で作られた教科書を使用するというので、特に変に構えてということはないかと思えます。各学校では指導計画を立てていますが実際にやっていく中で修正をしていき2年後にはいいものを作っていきたいということでございます。

副読本の関係でございますが、せっかく道徳が教科になっていくということでより体系的なものが必要となりますので今までも地域教材というのを扱ってきました。これにつきましては町内統一な物を作っていきたい。小学校中学校と連携のとれたものをこの2年間の間に、あるいは道徳だけでなく総合的な学習でも使えるような地域教材を題材にしたものができればと準備を進めています。

来年度も道徳の係あるいは総合的な時間の係を中心に郷土の教材の洗い出しをしてまとめていく作業が残っています。長野県の小中学校は信濃教育会の資料集を使ってきました。この光村の教科書の中にも信濃教育会の編纂した資料がいくつか入っていますので信濃教育会の資料については引き続き活用していくこととなります。

また、通知表が入ってきます。評価をしなければならなくなりますが、児童生徒の学習の記録、意欲、可能性といったものを数字ではなくて記述で評価していくことになってまいります。ですから道徳の評価は他の教科と違ってきます。

外国語活動は特に大きな変化になってまいりますけれど、現在では小学校5・6年生が1年間で35時間の外国語活動となっているわけでありまして、これが新しい学習指導要領では3・4年生に下りてきます。また、5・6年生におきましては外国語科といって教科となります。それが年間70時間となります。そこでこの2年間の移行では、それぞれ35時間、70時間ではなく15時間、50時間でいいということを経験会でも相談をしながら2年間かけて無理のない形で先生たちが自信を持って、英語科あるいは外国語活動ができるようになった段階で、2年後完全実施として取り組んでいこうと思います。

町内では保育園が今までALTの先生が月に1回程度回って外国語活動をしていただいていたわけでありまして、昨年の半ばからつくば開成高等学校の先生が各保育園で英語遊びをしていただいていますので、辰野町では1・2年生においては国際理解教育ということで英語を使った教育を入れてまいります。これは移行措置や学習指導要領にはないわけでありまして、辰野町の教育の特徴として1年生から外国語活動に取り組んでいくこととなります。新たに時数が増えるわけでありまして、週29時間のところへ英語、外国語活動が1時間ずつ入ってくるとなると、週30時間となりますが、週30時間とるとするのは非常に難しいこととなります。単純にどこかに1時間増やすということではできませんので①にございますけど国語の時間を15分×3のモジュールという形をとって時間を生み出してまいります。例えば学校によってですが、朝の活動に15分間の国語や算数のドリルが入ってくると単純に考えていただければいいと思います。朝の活動に15分間のモジュールの国語が、あるいは算数が入ってくる形になってまいります。ですから、週の授業数は29時間のままという形になります。以上ですが学校では外国語、外国語活動は担任が授業をするわけでその担任の力量が大きく関わるところですが、各学校ではその研修が済んでいます。ALTの派遣をお願いしているインタラクという会社に行ってもらっています。いずれにしても小学校の先生も全員が英語の免許を持っているわけではありませんので先生方の負担も相当であります。研修を通して自分でもできそうだなあと思われた先生が多いということをお聞きしております。少なくとも外国語、英語を嫌いな子どもを作らないようにしなければならないという気持ちであります。

評価についてはお読みいただければと思います。加えて、ALTはこれまで2名でしたが来年度からは3名に1人増員という形を取りたいと思います。1名は中学校専属、1名は西小と川島小学校プラス学区内の保育園、1名は東小と南小プラス学区内の保育園といった形で現段階ではそこにある曜日に各学校を回っていくことになっております。

次に ICT 教育の関係ですが、30 年度に向け特に中学校を中心に整備をしてきました。大型提示装置等の整備をさらに充実させていくこととございます。タブレットを充電できるキャビネットを中学校と西小へ配置していく予定とございます。つくば開成高等学校からタブレットが寄贈されていますがこれは新たなソフトを入れて特別支援教育で活用できたらと思います。来年度整備しなければならないこと、再来年度整備しなければならないことを精査して準備を進めていかなければならないことです。ICT 教育の整備につきましては財政に相当な負担がかかります。またこれに関わっては教育委員会事務局だけではなかなか対応できませんので ICT 教育の支援員を正規で 1 名確保しているところとございます。ICT 教育支援員を中心に小中学校の ICT 教育の充実を図っていくと考えているところとございます。以上です。

<山田副町長>

質問でもなければ意見でもありませんが、私も副町長になる前はまちづくり課長でございましたからそこでちょうど 5 年前から移住定住問題が急に出てきたものですからそのなかで感じたことですが、辰野町の人口減少が大きい理由は子どもたちが卒業して都会に出て戻ってこないという現象が顕著に出ていると思います。それを勉強していくうちに子どものうちから辰野町が好きだという、教育とっていいかわかりませんがそういう感覚をもっていかなければならないと思います。そのためには辰野町のことを勉強して辰野町にはどういうものがあってどういうところかというのを知らなければなりません。例えば今も中学校においてはスコープというこども広報も作っていて、辰野町のことを小さいうちから知れるところがあると感じます。今回の新しい教科、特別な教科道徳の中で地域資料をまとめられてそういうところも勉強してもらえるのはとてもありがたいこととと思っていますので期待をしています。

もうひとつ、ICT 教育に関して 1 名正規の職員を支援員として配置しました。支援員を配置するのに役場の職員も足りなくて困っていましたが教育長の熱い熱意もありまして 1 名配置させていただきました。来年に向けて体制づくりもできたかなと思います。

(2) 辰野町の教育施策について

- ・教員の働き方改革について
- ・中学校体育館 自動販売機設置について

○宮澤教育長より別紙の通り説明

<一ノ瀬総務課長>

ありがとうございました。まず、働き方改革の方でございますが、2 つありまして夏休み期間中に 9 日間の学校休業日を取ることで、タイムカードの導入ということでありました。これらにつきましては先日の議会でも報告がありましたので承知をしております。今はじめて聞いたのはですね、中学校の体育館にスポーツドリンクの自動販売機を設置

し、1本あたり20円の支援金が学校に入るといった話がございましたので、それについて町長副町長、私も含めて初めて聞きましてので何かございましたらお願いいたします。

<山田副町長>

自動販売機についてですが、役場の中にも災害時に無料で飲料が出る自動販売機がございます。今そういったものが広がっていますが、今回の自動販売機に関しては中体連に関わりスポーツ振興も目的でもあります。今回、長野県で初めてということでもありますのでどういった成果がでるのか楽しみであります。

(3) 町立川島小学校のあり方、武居町長の見解について

○武居町長、別紙「川島小学校存廃問題」を朗読。

<宮澤教育長>

実は、予想をしていなかった結論であります。先週からも町長にどういう考えですかと、お話をお聞きしようとしていましたが、総合教育会議で話をする了一切話されませんでした。副町長にも話を聞いても何も聞いていないとのことでした。今初めてこの資料を見させていただいてまだ、意見がまとまりませんが、ひとつ質問させてください。

ここにも載っているのですが、20人のあり方検討委員会のみなさんも川島小学校のよさを十分に理解していて、子どもの学びを考えたら最終的に様々な葛藤もありましたが全員一致でおおむね10名という基準を設けました。この基準を設けるというのは川島小学校が引かかってしまうことを理解している中で結論を出していただいたのでこれは非常に重いと思っています。この提言を町教育委員会で受けた形で見解を出して早急に統合すべきだということになったのですが、私はそれを今でも間違っていないと思っています。あり方検討委員会の提言も間違っているとは思いませんし、教育委員会で早急に対処すべきだということも間違っていないと思っていますが、町長としてあり方検討委員会の提言に対して書いてありますが、どういう評価をしているのかとか、あるいは子どもの学びに対して一定の方向性を出しましたが、これに対してどういった評価をしているのかを聞きたいと思います。

また、川島小学校の現状を見たとき、あの姿がここから先さらに子どもの数が減っていく中続いていくことについて教えていただければと思います。

<武居町長>

先ほど朗読させていただいた文章にあったようにもなってしまいますが、あり方検討委員会の提言、また教育委員会の見解については、尊重したいですしその結論については大変重く受け止めています。川島小学校の現状について現場に行って、本当は何度か

行きたかったのですが、直感的に感じたのは数は少なかったのですが、非常に一人ひとりの自己表現ができていますと感じました。例えば、下級生への言葉には非常に思いやりがありました。進学面の学力を重視するのがいいのか、あるいはあと10年後には社会人になっていく子どもたちですので社会人としてたくましく生きていくにはどうしたらいいのか、私自身もどちらがいいのか結論が出ない状況であります。確かに数だけ見れば危機的状況にあると思います。ただ、一方で自分自身が大規模校で育ってきましたので集団指導を受けて集団教育の中で育ってきました。ですので自分の生き方を肯定的に捉えてみるとどうしても川島小学校の現状は問題ありと思えました。ただ、自分の教育というものの価値観を思い切って別の面から見たときに、個というところを見たときに勉強ができるだけでいいのかなと思ひ、思いやりのある子どもが社会に出て行くのがいいと思ひました。私も大勢の競争社会で生きてきて勉強でも運動でも常に競争の中で生きてきましたけど数多くの挫折を経験してきました。挫折をしても今このようになりますけど、悲しいことに自ら命を絶つような人を見てきて、競争社会の生んだ悲劇としか言いようがありません。とにかく10年後にはたくましい社会人になるという観点で川島小の現在の子どものを見てきたつもりです。その中で先ほどの私の考えになってきたわけであります。

<宮澤教育長>

なかなか厳しいですね。ただこれを見させていただくと、辰野町教育委員会としては子どもの学び、教育環境、友達と支えあったり切磋琢磨したりということから考えてきたことは先ほどもいいましたが、間違っていなかったと思っています。それはこれからも大切だと思います。この町長のこれだけの文章は、副町長にも相談をしなかったということは、もちろん私にも相談はなかったのでお一人で苦しまれた、町長になって半年の現時点でこれから残り3年半の任期の中で総合的に判断したんだろうと思います。なので3年間ほしいということだとは思いますが、3年間は教育委員会だけでなく、全員で何とかしていこうということなんだろうと思います。それでも結論が出なかった場合には、きっぱりという風にも取れますが、もう方向付けをしようと、ということですか。

<武居町長>

先ほど文章にもありましたが、希望者はあっても応える現場の人たちはやっぱりなくなるかもしれないといわざるを得ないです。私も調査して、川島に行けなくなったとしたら伊那市の新山小なんですね。ああいった環境を求めていく、これだけ都会の人から見たら自然が豊かで、私は西小も東小も十分自然豊かだとは思っていますが、どうも都会の方のイメージは山に囲まれているようでどうしてもそのような環境を求めているようです。教育長の質問でありますけども非常に、3年間というのは、とにかく矛盾なくやりたいんです。やろうとしていることに矛盾しているのは問題だと思いますので、

川島小の現状を正直に話し、自信を持って移住定住政策を進め、その上で川島小学校を選んでいただきたいと思えますし、伊那市の新山小の話ばかりするわけにはいきませんが、あの小学校は市の方針で廃校が決まっていたのですが、今では伊那市で一番有名な小学校になってしまいましたから、伊那市の人はありがたくてしょうがないという声も聞こえてきます。それが人口増加策につながっているのだと思えます。その点でも伊那市にも負けたくない。上伊那の北の端の核として踏ん張っていきたいと町長としての意気込みも含めてあります。3年間というのは正確に答えていませんが、3年間は徹底的にやる方向でいろいろな政策を立ててやっていきたい。もしその段階で増える傾向がみえないときにはあきらめざるを得ない。その時に地域住民の方々はもっと争っていくかもしれないと思いますが、もうぎりぎりの期間ではないかと思えます。

<一ノ瀬総務課長>

今のお話を聞いていますと3年間をチャレンジ期間としてやっていくのだと、その上で3年後には方向性を出すということで今年度9月の小中学校あり方検討委員会の提言、それから教育委員会の見解といったものに対して町長の方針はありましたが、これをどこかで検討委員会へ伝える機会は設けるのでしょうか。

<宮澤教育長>

まったく考えてなかったですが、ここで今の町長の方針を町の総合的な町政の中でということですが、教育委員会はそれに従ってくださいということに、はいわかりましたと今すぐにはいえません。また、教育委員会として検討させていただきたいし、あり方検討委員会の皆さんに対してということにも何も考えていないところで、何もしなくてもいいのかなと思うところもございしますが、これから先のことに対して聞かれても、です。とにかく3年間は武居町長がおっしゃるようにながむしやらにがんばってやってみる、その時点でだめであれば方向付けをだすということ、子どもの学びということを入りながらやっていってほしいなと思えます。教室の中で一人ぼっちの子どもがいる。やっぱり寂しいと思えます。切ないと思えます。これは川島小学校の先生たちもよく言っている言葉でもあります。授業中がいいが、休み時間になるとひとりぽつんと窓を見ている、それを見たとき本当に切なくなる。授業は先生たちが一生懸命やってくれていいのですが休み時間になるとかわいそうだと、そう聞くとある時期にはきっぱりと、と思えます。それは今も変わっていません。

<根橋教育長代理>

教育委員として長くやってきたという話は前回もさせていただきました。教育委員会としても何年にもわたって議論してきました。教育委員会を川島小学校で2回やっています。1回は一部公開で、住民の方20名くらいの方がいらしました。その中でご意見

をもらった機会があります。その中には、残してほしいという声と、そろそろいいのではという声がありました。そういった中で小中学校あり方検討委員会を立ち上げて住民の方からご意見を聞いてきた、そういった経過があります。その中に、特認校があり、移住定住の話がありました。移住定住されて、特認校制度を利用して入られた人はたしかにいました。しかし、川島から出て行ってしまう子どもさんが何人かいたわけで、これから先どうなってしまうのかと、やはり結論は出しづらかったわけでそれが今に至っていると思います。今、川島から出て行ってしまう子どもを減らすことも必要であると思うし、その子どもたちを川島小学校へ入学させることも大切だと思います。今まで議論してきましたがなかなか結論を出せなかったというのが実情だと思います。

3年先にあきらめる考えもあるという意見を聞きましたけど、どういう状況になればどういう判断をするのか、増えていかなければ困ると思うし、どういう基準があつて3年先を判断するのか疑問です。

<村上委員>

私も川島小学校を見させていただいたり、色々な会議に参加させていただいたりして、本当に皆さんが考えてくださっていると感じました。私も、川島は自然豊かでとてもいい学校だとは思いますが、今在籍している子どもたちのことを考えたときにいい部分もあるけども、この今の歳でしかできない経験というものをどのくらいできているのか、人数が少ないからいけない、多いからいい、という問題ではないですけども、やはり今後生きていく子どもたちのために色々な経験をさせていただきたいと思います。私の中で、先ほどおっしゃられた3年後を目安としてなんですけれどもそれまでは一生懸命するという話でしたが、移住定住の話を進めていく中で3年後という期間を考えても、今から小学校へ入学する子にとっては途中で学校が変わってしまうということになります。川島を気に入って入学したのに3年後どうなるかその時にならないとわからないよ、という話をしなければならぬということを検討していただきたいと思います。ぜひ子どもたちのために考えてほしいと思います。

<垣内委員>

色々考えるところは、委員も町長も同じところであると思いますが誰の為の学校なのかと考えたときに、子どもたちがいろんな経験ができて巣立って行ってほしいと思いますが、今の現状ですと学年が1人、2人というときにある物事に対しての意見は1つ2つしかなくて、それなりの人数がいて例えば10人のクラスであれば、10通りの意見があつてそういう考えもあるね、それいいよね、という意見も交わしたりできるというのは将来社会に出たときに、いろんな人がいる中で、では自分はどうあるべきか考えられる人間になれると思います。しかし、簡単な問題ではないのでなかなか厳しい話ではありますが今いる子どもたちの現状を見て考えることも必要であると思います。相対的に

考えることは難しいと思いますが、もし私の子どもが昼休みにぼつんとしていたら耐えられません。そういったことも念頭に考えていただけたらと思います。

<関委員>

今町長の説明の文章をお読みになったのを聞いて一番最初の印象は、このような説明が最初にくるのか、ということでした。もう少し少人数のメリットですとか今の川島小学校の状態の良さを存続理由に挙げてくるのかと思っていましたが、最初に町の移住定住のことですとか、悪い捉え方をすると移住定住のPRツールになっているように感じる文章です。少人数校メリット、デメリットについてはいろいろありますが、教育委員会の中では少人数制のよさの限界を超えている人数だという意見も出ています。どれが正解かという結論はありませんが、メリットはたしかにあるのですが先ほど村上委員、垣内委員も言いましたがちょっとその辺のところ厳しいかなと感じています。それから、3年をめどに考えるということでしたが、町長の私案の辰野モデルのことを考えたときに統廃合の先送り、いずれはこのような形になるということは誰も理解している中で、3クラスあれば辰野町の小学校は間に合ってしまうということは今の子どもの数からわかっていることであります。3年後にそういうことを出すということに、例えば次のステップである辰野町立辰野小中学校もが手遅れになるということが懸念されます。例えば特認校制度を使って川島小学校へ通うこと、移住定住のこともそうですが小学校は6年間あり、川島小学校に魅力を感じて移住定住してきた人たちが3年後の見直しがやってきたときに、例えば悪い方の結論にいつてしまつて川島小学校はやはり3年前に立ち返つて西小学校に統合しますといった形になつてしまつたときに、そういった人たちからはそんな話ではなかつたと、いうことになつてしまう考え方もできます。考え方まとまりませんが、最初に言ったとおりですが、この存続理由が最初に来るといふのは残念でした。

<一ノ瀬総務課長>

今、それぞれの委員さんの思い意見を聞かせていただきました。ここで副町長からも意見を聞きたいと思います。

<山田副町長>

私も考えがまとまっていますが、今日聞いていた中感じたことですが、今までは教育委員会から町長へ投げかけていたのですが、逆に町長から私たち行政に、教育委員会にも、地域の人たちにも投げかけられたのだと思います。3年間というチャレンジ期間が最後の短期決戦で期間を区切っている中でやれることをやってみよう、ということ投げかけられたと思います。たしかに移住定住と子どものことは切り離して考えるべきだと思いますが、行政に携わる人間として移住定住が叫ばれている中で、人口減少の社

会で人口を増やそうという中で、どうしても行政サービスを充実させなければいけない。例えば子育てサービスをもっと充実させていかなければいけない。また、移住定住施策に補助金をいれたりする施策を展開して、その中で疑問に思っていたのは、人口減少が始まっていくとどうしても収入が減ってくるので経費を削減していくための行財政改革というのを行っていかなければいけません。まちづくりの方向性と行財政改革がこのところ矛盾していたのかなと感じていました。今日投げかけを見ますと、改めて難しさを感じました。まちづくりとそういったものが一致していけばいいのだと思いますが現実やはり違うんだなと実感しました。この投げかけであります、川島だけの問題ではなく、職員一人ひとりがこの問題を捉えてどういう風にこれからまちづくりをしていけばいいのか、考えていかなければならないと思っています。今日のことを、課長課長補佐にも投げかけていきたいと思っています。

<一ノ瀬総務課長>

皆さんの意見を聞きましてここで、こうしようということは言いませんが、いずれにしてもこういった意見、基本は町長の意見ですが、それに加えて委員の皆さんの意見、副町長の意見、また一般の方の意見等出てくると思いますが一旦は町長の意見を聞いたということにして、ここで閉じたいと思いますがよろしいでしょうか。

総括

(1) 教育長

長時間ありがとうございました。まとめにはなりません、最後に山田副町長がまとめてくれたと思います。最初の挨拶の中でこれは川島小学校だけの問題ではないと言いました。広く町民がそれぞれの立場で真剣に考えていただきたい、そのために検討委員会を立ち上げさせていただきました。山田副町長がまとめていただきましたが、これは教育委員会が町長の方にボールを投げたのですが実は町長が教育委員会に投げ返したのではなく、広く町民に、町の職員に考えてくれと、議員さんの皆さんにも真剣に考えてくれとこれは川島の問題だけではないんだとそんな話をしたんだと思います。これをもとに町全体が明日を担う子どもたちのために考えていただきたいなど、そうなれば今日の議論が活きるかなと思います。人口が減少していく、子どもの数が減っていくことは本当に厳しいことでもあります。だが、やってはいけないのが辰野町の教育水準を下げてしまうことです。町長のこの文章の中にも教育長という言葉がございます。町長と教育長として話したわけではありませんが、先ほどの移行の話にもあったように、小学校1年生からも外国語活動をします。人口が減っても子どもが減っても教育の水準だけは下げてはいけないと思います。最後は教育なんだと思っています。

今日いただいた課題に関してはこれから検討したいと思えますし、教育委員会として

は学校がなくなるその日まではその学校に通う子どもを全面的に支えるということに変わりはないことで、引き続きこれからも町長・副町長とともに常日頃から情報交換をしていきたいと思えます。教育委員の皆さんにもそれぞれ思いを言っていただきました。それから町長の思いを聞かせていただきました。本日はありがとうございました。

2、閉会の言葉

<一ノ瀬総務課長>

さきほどの3年間ということでありましたので、まもなく新年度が始まります。今すぐにでも施策をスタートしなければなりませんのでいつまでも議論を重ねていくわけにはいきませんので、早い方向付けをするようにお願いします。以上をもちまして、平成29年度第2回辰野町総合教育会議を閉会とします。ありがとうございました。